

第2回 光明台中学校区 学校適正配置意見交換会



本日の次第

1. 前回の内容について（ニュースレター）
2. 南松尾はつが野学園・榎尾学園の現状、課題について
3. 新校の建設等について
4. 通学対策について
5. 今後の進め方について

1. 前回の内容について

光明台中学校区における 今後の教育環境について

2026
Feb.

No.1

光明台中学校区の各小中学校においては、少子化・小規模化が続く見込みです。教育委員会事務局では、将来に向け、より良い教育環境について検討しています。

光明台校区の児童生徒数の状況

	H22	H27	R2	R7	R12 (推計)
光明台北小	766人	734人	590人	350人	304人
光明台南小	553人	556人	420人	247人	191人
光明台中	511人	610人	576人	477人	274人
合計	1,830人	1,900人	1,586人	1,074人	769人

- ・ H27年をピークに、年々減少傾向（光明台北小はH27年以前から減少傾向）
- ・ 年を追うごとに減少幅が拡大し、今後もさらに減少していく見込み

5年後の児童生徒数・学級数の推計

	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	合計
光明台北小	35 (1)	54 (2)	43 (2)	57 (2)	75 (3)	40 (2)				304 (12)
光明台南小	28 (1)	32 (1)	32 (1)	29 (1)	42 (2)	28 (1)				191 (7)
光明台中							89 (3)	83 (3)	102 (3)	274 (9)
統合した場合	63 (2)	86 (3)	75 (2)	86 (3)	117 (4)	68 (2)	89 (3)	83 (3)	102 (3)	769 (25)

- ・ 中学校区全体の児童生徒数は769人となる

校舎の状況

学校名	開校	築年数
光明台北小	昭和60年	40年
光明台南小	昭和53年	47年
光明台中	昭和53年	47年

- ・ いずれの学校も築40年以上で、老朽化。
- ・ 一般的なコンクリート造の耐用年数は60年。使用し続けるなら、長寿命化を図るため、大規模改修工事が必要。

現状では、一定の教育環境が確保されており、検討の必要性が感じられないかも知れませんが、5年後の児童生徒数を鑑みると、将来に向けた教育環境の検討が必要な時期にきています。

そのため、PTAや就学前の保護者、町会、地域関係団体の代表の方々と、光明台中学校区における今後の教育環境についての意見交換会をスタートしました。

意見交換会の概要は裏面に記載しています。

第1回意見交換会

- ・ 令和8年1月20日（火） 光明台南校区を対象に開催（出席者13人）
- ・ 令和8年1月24日（土） 光明台北校区を対象に開催（出席者13人）

意見交換会の概要

- ・ 今後の児童生徒数の見通しを共有
 - ・ 校舎の築年数の状況を共有
 - ・ 施設一体型義務教育学校での取り組み映像を共有
 - ・ 施設一体型義務教育学校を導入するために必要な手続きを共有
 - ・ 今後、地域の方と意見交換を行い、説明会などを行っていくことを共有
 - ・ 南松尾はつが野学園、槇尾学園の状況などを共有
- その後、3つのグループで気になることなどについて意見交換を行いました。

※当日の資料はこちらに掲載



主な意見

- ・ 施設一体型義務教育学校に関する情報をもっと知りたい
 - ・ 南松尾はつが野学園、槇尾学園の現状を詳しく知りたい
 - ・ 学校の施設が新しくなるのは嬉しい
 - ・ 学校の場所がどこになるのか知りたい
 - ・ 遠距離通学のこと心配（通学手段などが気になる）
 - ・ バスに乗って通学できるなら安心
 - ・ 施設一体型義務教育学校になれば、小中学生の交流がしやすくして良い
- その他たくさんのご意見をいただきました！

（参考）

和泉市では、既に施設一体型義務教育学校である「南松尾はつが野学園」、 「槇尾学園」が開校しており、意見交換会の前に見学会を実施しました。また、令和9年4月には市内3校目となる（仮称）富秋学園が開校予定です。



南松尾はつが野学園



槇尾学園

今後の予定

- ・ 地域の方との意見交換会等を重ねながら、地域説明会やアンケート調査などを行うことも検討しています。（時期未定）
- ・ 今後、校舎整備や通学対策などについても意見交換を行う予定ですので、ニュースレターで情報を発信していきます。

ニュースレターをメールで配信します！

ニュースレターの配信を希望される方は、右の二次元コードを読み取っていただき、お名前、「ニュースレター希望」と記載のうえ、メールを送信してください。



（問合せ先）和泉市教育委員会事務局
教育・こども部 教育総務課
（TEL）0725-99-8196
（E-mail）komyodai@city.osaka-izumi.lg.jp

前回の意見交換での質問や意見

1. 今後、市が取り扱いたいテーマに関する質問や意見

- 南松尾はつが野学園と槇尾学園の課題や現状など詳しい状況を知りたい
- 光明台中学校区は校区が広く、現状でも通学距離が長い中、より遠くなることは心配
- 学校跡地について、避難所機能として残してほしい



今回または次回以降のテーマとして詳細に説明、意見聴取を行う。

2. 将来的な展望ではなく、現時点の状況から見た質問や意見

- 今、こどもが楽しく学校に通えているので、小中一貫校が必要か疑問
- 少人数のメリットもあるのではないか



少人数の良さも認識している。

今の時点では少人数による課題は感じにくいと思うが、今後はさらに子どもの数が減少し、少人数のデメリットがより顕在化することが想定される。

市としては、デメリットが顕在する前に、将来を見据えた早期の対応が必要と考えている。

※ニュースレターの上段を参照

3. 心配する意見

- 小学6年生がリーダーシップを発揮する機会が失われるのでは。
- 中学校に上がるタイミングで支援学校に通う相談の機会があるが、小中一貫校になるとその機会がなくなるのではないか。
- 中学生から悪い影響を受けないか心配。
- 中学校から心機一転が図れなくなるのではないか。
- 他で開かれた学習会などでの説明を聞いて、小中一貫校は課題が多い学校だと思っている人もいる。



本市において、すでに開校している義務教育学校について、
本日の次第2「南松尾はつが野学園と槇尾学園の現状、課題について」で説明

4. 前向きな意見

- 小中一貫校は、一貫性・連続性のある教育、小中交流が魅力。
- 施設が新しくなることは魅力的。
- 小学生にも教科担任制を取り入れることで、子どもたちの可能性が広がる。
- 保育園保護者へのアンケートでは、0歳児の世帯などは賛成が多い。
就学直前の子の世帯などは、導入するなら早くして欲しいと思っている。
- 子どもが多い方がいいので、小中一貫校に賛成の人もいる。
- 周囲の保護者の反応は概ね嬉しそう。
- 子どもの人数が減り、校舎も古くなる中、小中一貫校の導入は良い提案。
- 不安が解消できれば賛成になるはず。みんなで不安を解消できるよう
考えながら良い学校をつくりたい
- 子どもが減ると教員の数も減り、校務分掌の体制がとれなくなるが、小中一貫校になれば教員の数を確保でき、体制が充実すると思う。
- 小学校の先生は子どもと丁寧に向き合うので、中学校の先生にも良い
影響・刺激になるのではないかと思う。
- 疑問があるため、現時点での判断はできないが、課題を一つずつ解決していきたい。
- 良い学校ができれば、子育て世帯にとって魅力的なまちになる。

5. その他の質問や意見に対する回答

○人数が増えることで教職員の負担が増えるのでは。

⇒統合により子どもの人数だけでなく、学級数も増えることで、教員の数も増える。

そのため、多くの教員による情報共有や連携、子どもへの対応が可能となる。

○北校区と南校区のコミュニティをうまく統合しないと学校も、うまくいかないのでは。

学校と地域のつながりはどう変わるのか。

⇒校区を統合する、それぞれの校区を自治区として残して連携を図る、など、実情に応じた最適な方法を、地域で選択することができる。

また、学校と地域との関わりは、コミュニティ・スクールを通じた協働を行うため、学校の統合や、コミュニティの統合などによって大きく変わるものではない。

○子育てを終えた世帯からは、母校がなくなることへの反対の声もある。

⇒母校がなくなるさみしさは理解しているが、将来に向けて最もいい方法を検討していきたい。

○施設一体型義務教育学校・小中一貫校は全国、大阪府それぞれで何校あるのか。増えている理由は。

⇒令和7年5月現在で、全国で389校、大阪府で23校設置（詳細は次頁）増加の要因としては、児童生徒数の減少を契機として、教育的効果の高い小中一貫教育を推進するためと考えられる。

大阪府内の設置状況（施設一体型義務教育学校・小中一貫校等）

※市教委のHPなどから

市町村名	学校名	開校年
和泉市	南松尾はつが野学園	平成29年
	槇尾学園	令和7年
	(仮称) 富秋学園	令和9年(予定)
箕面市	とどろみの森学園	平成20年
	彩都の丘学園	平成23年
堺市	さつき野学園	平成24年
	大泉学園	平成25年
大阪市	やたなか小中一貫校	平成24年
	小中一貫校むくのき学園	平成26年
	いまみや小中一貫校	平成27年
	日本橋小中一貫校	平成29年
	咲洲みなみ小中一貫校	平成30年
	田島南小中一貫校	令和4年
	生野未来学園	令和4年
	中之島小中一貫校	令和6年

市町村名	学校名	開校年
守口市	さつき学園	平成28年
八尾市	高安小中学校	平成28年
池田市	ほそごう学園	平成30年
羽曳野市	はびきの埴生学園	平成30年
能勢町	能勢ささゆり学園	令和4年
寝屋川市	東寝屋川学園(E-Ne学園)	令和6年
豊中市	庄内さくら学園	令和5年
貝塚市	二色学園	令和6年
交野市	交野みらい学園	令和7年

施設一体型義務教育学校・小中一貫校は、
全国で389校、大阪府で23校設置
(令和7年5月現在、国立・私立を除く)

【参考】

(全国) 小学校：約19,000校 中学校数：約9,000校
(大阪府) 小学校：約960校 中学校：約450校

6. 新校整備に関する要望

- 南松尾はつが野学園のように開校後にこどもの数が増える可能性もあるため、色々対応できる施設を望む
- 小中学生が交流できる場所が欲しい
- 小中学生がお互いに気を遣わずボール遊び等ができる場所の整理も必要
- 現地建替えならば、在校生の迷惑にならない配慮をして欲しい
- 特色のある学校にしたい
- 学童保育の利用者が増えているため、新校でも充実させて欲しい



どのような学校にしていくかは、今後の意見交換会のテーマとして取り扱うこととし、詳細については、適正就学対策審議会後に開催する学校開校準備委員会で整理していく予定。

2. 南松尾はつが野学園・榎尾学園の 現状、課題について

義務教育学校の現状について

南松尾はつが野学園

全校児童生徒 925人

1年生 152人 5クラス ⇒ 9年生 56人 2クラス

※宅地開発により、下学年になるほど人数が増加

槇尾学園

全校児童生徒 394人 各学年 約50人 2クラス

※定員を設け、和泉市全域から通学できる特認校

義務教育学校の現状について

不登校（年間30日以上欠席者）の現状

南松尾はつが野学園 後期課程

和泉市全体に比べて

- ・不登校者数の割合は**少ない**
- ・新規不登校者数の割合は、ほぼ同程度

榎尾学園 後期課程

和泉市全体に比べて

- ・新規不登校者数の割合は**少ない**

課題について（学校の声）

- ・後期課程進級時に、知っている先生がいるし、前期課程の先生にも相談しやすい（児童生徒）
- ・子どもの数が多すぎて、義務教育学校ならではの「全学年での取組み」を実施することへのハードルが高い（教職員）
- ・前期課程の児童数が多く、縦割り活動を行うことが難しい（教職員）
- ・「小中一貫教育」を行う学校として、特別なことをしていると思われてしまう（保護者）
- ・教職員との関係が良好な場合、いつでもだれにでも相談できる（保護者）
- ・教職員との関係が良好でない場合、いつまでもその関係を引きずってしまう（保護者）
- ・運動会を全学年でやるか前期後期で分けてやるかについては悩ましい（保護者）

義務教育学校 Q & A

Q.小中で授業時間が違って混乱しない？

A.始業のチャイムのみ、同時刻に鳴らします。

チャイムは1時間ごとに鳴る運用で区切りが明確です。

小学生の休み時間は15分、中学生の休み時間は10分で固定されており、混乱は起こっていません。

Q.中学生が授業をしている間は、小学生の遊びが制限される？

A.義務教育学校2校では、遊びを制限していません。また、一般的な小学校の休み時間よりも5分長いため、不満は出ていません。

義務教育学校 Q & A

Q. 中学校のテスト期間は、小学生の活動が制限される？

A. 教室の場所の工夫で対策できます。

中学生の教室前のろう下に入らないよう立て看板をおいて対応していますが、活動は制限されていません。

Q. スクールバスはストレスがかかる？

A. 子どもによって何がストレスになるかはさまざまです。徒歩通学でも、配慮が必要な子どももいます。場合によっては、保護者による送迎も可能です。

義務教育学校 Q & A

Q.保健室や図書室は小学生と中学生でニーズが違うのでは？

A.南松尾はつが野学園や槇尾学園では、養護教諭は2名配置で、保健室も前期・後期の2室あります。図書室は1つですが、それぞれのニーズに応じた図書を配架しています。また、小学生と中学生が同じ図書室を使うことで、中学生による小学生への読み聞かせなどの交流がしやすい環境となっています。

Q.運動場や体育館の利用が制限されない？

A.南松尾はつが野学園は、児童生徒数が多いため、時間帯を分けて使用していますが、槇尾学園においては、低学年専用のテラスを設置しているほか、運動場の広さ、体育館の大きさを十分とっているため、制限はありません。

義務教育学校 Q & A

Q. 小学校の部活動参加は必須？

A. 必須ではありません。南松尾はつが野学園では、小学生は中学生より活動時間を短くしています。

Q. 6年生に最高学年の自覚を持たせられない？

A. 前期課程のみでのたてわり活動等により、前期課程リーダーとして自己有用感を高める取組みも実施しています。

Q. 小学生が中学生の問題行動に影響されない？

A. 上級生は下級生への思いやり、下級生は上級生へのあこがれをもつことができるようになることも報告されています。

義務教育学校 Q & A

Q. 中学校に上がるタイミングで支援学校に通う相談の機会があるが、義務教育学校になるとその機会がなくなるのでは？

A. 義務教育学校でも、他の小学校と同様に相談の機会があります。

Q. 南松尾はつが野学園は課題が大きいと聞くけど？

A. 南松尾はつが野学園は、1年生が5クラス、9年生が2クラスのピラミッド型で、現在も前期課程の児童が加速度的に増えています。

児童生徒数の多さや学年人数の偏りによる課題が生じているもので、「義務教育学校として」の課題ではないという認識です。

3. 新校の建設等について

新校整備の考え方

1. 校舎の整備について

○いずれの学校も建設から40年以上経過し、老朽化している。

学校名	沿革	延床面積	築年数
光明台北小	昭和60年開校	6,364㎡	40年
光明台南小	昭和53年開校	5,543㎡	47年
光明台中	昭和53年開校	7,311㎡	47年

○教育内容の多様化に伴う施設の高機能化や多機能化、バリアフリー化なども必要。



施設一体型義務教育学校の導入を契機として、子どもたちが安全・安心で快適に過ごせる学校を整備する

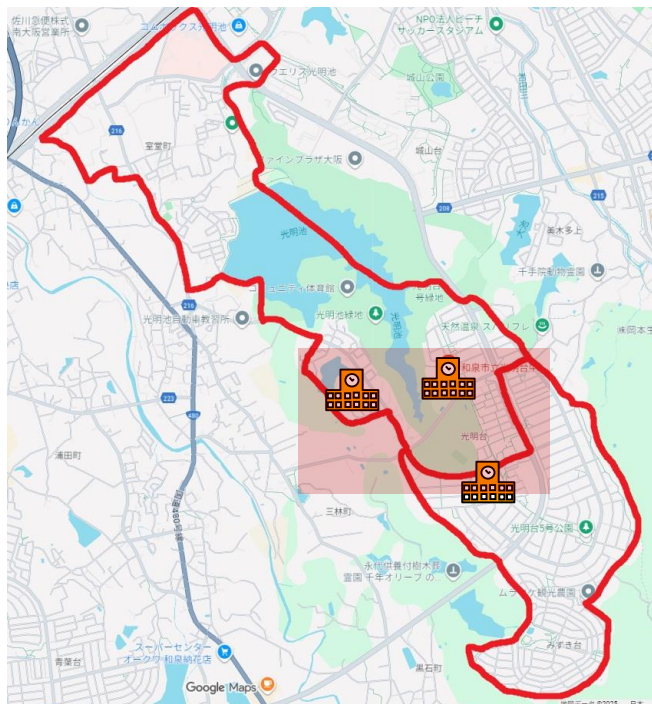
2. 新校の設置場所について

(1)これまでの施設一体型義務教育学校の設置場所

学校名	開校時期	統合学校	新校設置場所	検討の視点
南松尾 はつが野学園	平成29年	南松尾小学校 南松尾中学校	はつが野地区 に新規設置	UR都市機構の宅地造成により 用地確保
槇尾学園	令和7年	横山小学校 南横山小学校 槇尾中学校	槇尾中学校 (現地建替)	市有財産の有効活用 横山・南横山小の両校区が通学 する場所で、敷地面積が広く、 良好なレイアウトが期待できた
(仮称)富秋学園	令和9年 (予定)	幸小学校 池上小学校 富秋中学校	富秋中学校 (現地建替)	両校区の中央に位置しており、 敷地面積、立地条件を踏まえ、 富秋中学校区等まちづくり構 想にて整理

(2)光明台中学校区における設置場所の候補地について

【校区全体マップ】



【学校周辺の拡大マップ】



新校を整備する候補地として、現行の小中学校敷地のほか、光明池緑地運動場やUR団地敷地の活用が可能か検討したが・・・

①光明池緑地運動場の検討



○利点

- ・ 十分な広さ（2倍以上）
- ・ 工事期間中の子どもたちの安全確保や工期縮減が可能

○現状

- ・ 都市計画緑地として整備済みの一部

○開設済みの都市計画緑地を他用途に使用 ⇒ 2つの法律による制限あり

- ・ 都市公園法 ⇒ むやみに緑地を廃止することを禁止
他用途への安易な変更を防ぐための規定
- ・ 都市計画法 ⇒ 都市計画で位置や区域を決定している
既に整備済であり、都市計画を変更・廃止する理由が無い

⇒ 光明池緑地運動場への移設はできない

②UR団地の検討



○現状



- ・ UR光明台団地(昭和52年)

- ・ 当面は、UR光明台団地の集約化、再整備をする予定はない(UR都市機構より)
 - ※ 建築年や入居率の状況による
 - ⇒ UR光明台団地の跡地を活用することはできない

(3)学校敷地について

○ 光明池緑地やUR団地敷地が活用できないため、既存校での現地建替となる。

※いずれの学校でも工事期間中は子どもの安全に配慮する必要がある

学校名	敷地面積	航空写真	敷地の状況等
光明台中学校	27,001㎡		(良い点) ・敷地面積は最も大きい ・両小学校の中間に位置 ・光明池緑地運動場に近く、(工事期間中を含めた)活用がしやすい (悪い点) ・不整形で高低差がある ・工事車両の進入路確保やクラブハウス棟の解体等が必要か
光明台北小学校	22,006㎡		(良い点) ・道路面からフラットで整形地 ・工事車両がグラウンドに直接進入でき、工事しやすい (悪い点) ・敷地面積が小さい ・南校区からは遠距離になる ・南校区の卒業生にとっては小中学校がなくなる
光明台南小学校	22,063㎡		(良い点) ・整形地 (悪い点) ・敷地面積が小さく、高低差がある ・北校区からは遠距離になる ・北校区の卒業生にとっては小中学校がなくなる

敷地面積や立地条件からは、光明台中学校を相応しいと考えるが、工事可能か要検討

(4) 校舎や設備の特徴について 【榎尾学園】



■ 敷地の特性を生かした校舎

・約2mの敷地の高低差を利用し、各階が半階ずれたスキップフロアを採用

- ・学校の中の共有スペースにオープンな形で配置
- ・ルーバーや柱まわりのベンチにいずれもくを使用、木のぬくもりに包まれた空間を創出
- ・小中一貫校として、様々な学年の異学年交流の場を創出



メディアセンター



多目的ホール

多様な学習活動に活用できるように
スクリーン、プロジェクターを設置



普通教室

・各教室には黒板ではなく、ホワイトボードを
設置し、多様な学習活動に活用できるように
プロジェクターを常設

(4) 校舎や設備の特徴について 【(仮称) 富秋学園】



■ 交流ラウンジの設置

- ・ 2階と3階の中央に交流スペースを配置し、オープンな空間を確保
→ 人と人をつなぐ交流の場に
- ・ 壁面ホワイトボード（表現スペースの拡大、プロジェクターとの連携）の導入
→ 作品やイベント時の写真などを掲示できる他、広い空間での学習や発表も可能

4. 通学対策について

市の基本的な考え方

- 学校の統廃合などにより場所が変わることで通学距離が変わり安全面に配慮が必要となる児童についてはバス通学の対応を検討
 - 本市では小学生の通学距離が2kmを超える場合を目安として検討する
- バスの通学については公共交通維持の観点から、以下の対応を基本とする
 - ① 路線バス利用（通学定期代補助）
 - ②（①ができない場合に）スクールバスの導入

南松尾はつが野学園の対応

	前期課程	後期課程
春木川町	地元通学専用バス	地元通学専用バスまたは自転車
若樫町		
久井町		
春木町		自転車

※はつが野4～6丁目、松尾寺町は近距離のため対象外

- 当該地域には、公共交通バス（南海バス）の路線がなかったため、地元通学専用バスの対応とした
- 旧南松尾中学校区の児童生徒は、新校建設により学校の場所が遠くなったため、通学対策として地元通学専用バス利用
→小学生は通学距離が2 kmを超える場合、中学生は4 kmを超える場合を対象

榎尾学園の対応

		前期課程	後期課程
南横山地区	大野町・父鬼町	①地元通学専用バス	①地元通学専用バス
横山地区	坪井町・小野田町・ 下宮町・仏並町・ 大畑町・北田中町・ 岡町・国分町	②徒歩通学 (2km以内)	②徒歩通学 ④自転車通学
	善正町・福瀬町・ 南面利町	①地元通学専用バス (2km以上)	
	九鬼町・小川町	③デマンドバス (2km以上)	

地元通学専用バスの運行形態、利用料金等 (①)

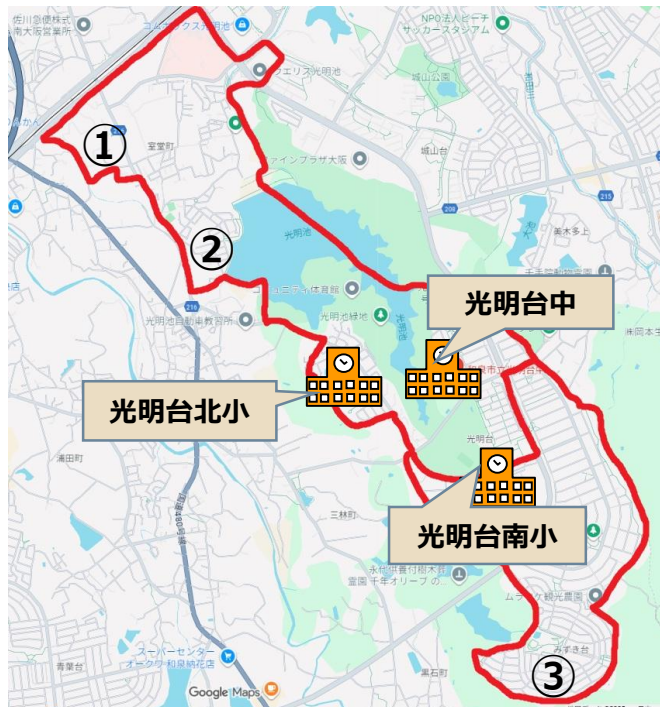
運行形態	民間バス事業者への委託
運行ルート	南横山地区・横山地区各1ルート
利用料金	保護者負担なし

デマンドバスの運賃補助 (横山地区③)

利用料金	保護者負担なし
------	---------

光明台中学校区では・・・

【各地域から3校までの距離と徒歩時間】



		光明台北小まで		光明台南小まで		光明台中学校まで	
		距離	徒歩時間	距離	徒歩時間	距離	徒歩時間
①	室堂町	2.2km	43分	3.2km	62分	3.0km	57分
②	和田町	1.4km	27分	2.4km	46分	2.2km	42分
③	みずき台	2.4km	43分	1.6km	30分	2.1km	41分

仮に・・・光明台中学校に新校が建設された場合に想定される通学方法

		前期課程	後期課程
①	室堂町	路線バスまたは地元通学専用バス	徒歩または自転車
②	和田町		
③	みずき台		

※後期課程は、学校の場所が変わらないため、通学対策の対象外

バス路線図



実線：南海バス
点線：コミュニティバス (めぐ〜る)

泉北光明池地区線
(みずき台/光明台方面)

父鬼ルート

5. 今後の進め方について

今後の進め方

- 各会の役員交代等に伴い、改めて、令和8年度意見交換会メンバーの選出をお願いします
- 次回の意見交換会は、5月または6月の開催を予定しています
(メンバー決定後、日程調整をお願いします)

意見・疑問等の共有 (グループワーク)

グループワークのテーマ

- ・義務教育学校についての所感、疑問
- ・新校の建設場所についての意見、質問
- ・通学対策について気になること
- ・本日の説明に対する質問等